

阿波十郎兵衛屋敷

えびす祭り

会場／徳島県立阿波十郎兵衛屋敷

徳島市川内町宮島本浦184

Tel.088-665-2202、Fax.088-665-3683

入場料／一般410円、高・大310円、小・中200円



beyond
2020

2020
1/13 月 祝 10:00~15:00



獅子舞

悪魔を払い、世を祝う縁起もの。
吉野川市鳴島町の森藤地区には
江戸中期から伝わります。



傘踊り

獅子舞とともに森藤八幡神社
に奉納される雨乞いの踊り。
小学生が傘を持って踊ります。

福餅の配布
各回先着100名様



お餅つき



えびす舞

五穀豊穡、家内安全、
商売繁盛を祈願し、
えびす様が大きな鯛を
釣り上げます。

えびす祭り

徳島では、年の初めに三番叟まわしの人形が1年の福を運びます。

漁師町にはおいべっさんの人形が大漁祈願に訪れ、お彼岸には農業の神様「地神さん」に三番叟を奉納します。

神社の境内の農村舞台では、鎮守の神様に人形芝居を楽しんでもらうなど、今も人形が地域の人々の信仰を支えています。

午前の部

10:00～10:15 三人遣いの人形体験

10:15～10:30 映像「地域の信仰を支える人形」

10:30～10:50 勝浦座「えびす舞」

11:00～11:30 定期公演「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」

11:40～12:00 傘踊り+獅子舞、お札と福餅配布

12:00～13:00 昼休み（もちつき体験、和田島漁協の天日干ちりめん販売）

午後の部

13:00～13:15 三人遣いの人形体験

13:15～13:30 映像「地域の信仰を支える人形」

13:30～13:50 勝浦座「えびす舞」

14:00～14:30 定期公演「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」

14:40～15:00 傘踊り+獅子舞、お札と福餅配布

勝浦座

江戸時代の寛政年間、当時の久国村名を付けて「国村久太夫座」として、村の若者たちによって発足。天保の飢饉で活動が中断し、明治の初めに復活したが、昭和6年、村の農村舞台の火災で座の頭・道具等を焼失して、休止状態となった。昭和21年に吉井（現・阿南市吉井町）の人形座の道具一式を買い取って復活し、現在の「勝浦座」となる。上演できる外題は28演目にもおよび、国内外での上演のほか、昭和51年から毎年、徳島市八多町にある「犬飼農村舞台」で人形浄瑠璃芝居を奉納している。

また毎年4月の第一大安の日には、和田島漁協の依頼で、漁場や漁船、加工場などで、漁の安全と大漁を祈願する「えびす舞」を行ったり、春秋のお彼岸には農業の神様「地神さん」に三番叟を奉納するなど、信仰の気持ちを伴い生活の中に息づく阿波の人形浄瑠璃の伝統を今日まで最もよく伝えている。

徳島を代表する座として広く知られ、東京の国立劇場や大阪の能勢浄瑠璃シアターなどの県外公演、アメリカ、スイス、オーストリアなど海外公演の経験も豊富である。昨年9月にはパリのユネスコ本部の大ホールとパリ日本文化会館でも公演を行い好評を博した。

森藤獅子舞保存会

森藤地区に古くから伝わる獅子舞及び傘踊り、二十四孝を保存（研究、練習）するとともに活用し、末永く後世に伝えて文化の進展に寄与することを目的に活動している。毎月第2第4土日曜日の夜に練習をするほか、毎週月曜日の夕方には、子どもたちを対象に獅子舞クラブも開催している。会員は現在、男性13名、準会員の女性4名、獅子舞クラブ部員15名。

三人遣いの人形体験募集（無料）

人形浄瑠璃で使う人形は、三人でひとつの人形を動かします。人間に近いリアルな動きもできる反面、返って難しいことも色々あります。公演の前に、その難しさをご説明し体験してもらうことで、人形浄瑠璃をより楽しんでいただきたいと思います。

この機会にぜひ三人遣いの人形を体験してみてください。

体験時間／10:00～10:15、13:00～13:15

募集人数／各回12名まで

お申し込み／徳島県立阿波十郎兵衛屋敷